

医療法人 聖志会 渡辺病院 作業療法課
松本建次、板井裕美、福田恵子
井畑浩敏、植田浩次

【はじめに】 認知症高齢者の入院生活における身体状態の維持やまた認知機能の維持に対して、歯磨きの整容は重要であるが、認知症高齢者の特性から、スムーズに歯磨きが出来ないことがある。今回我々は、当院の認知症病棟に入院する患者全員に対して、朝の歯磨き時の状態を調査し、検討したので若干の考察を加えて報告する。

【対象】 認知症入院患者 238 名（アルツハイマー型認知症 165 名、脳血管性認知症 35 名、混合型認知症 8 名、レビー小体型認知症 10 名、ピック病 3 名、アルコール性認知症 17 名の方を対象とした。男性：109 名、女性：129 名。平均年齢：80.9 才。HDS-R：測定不可もしくは 0～10 点 156 名、11～20 点 60 名、21～30 点 22 名。

【方法】 上記対象者 238 名に対して、朝の歯磨き時の自立、介助時の困難、その具体例と対応方法を調査した。

【結果】 整容において自立が 93 名、介助が必要な方が 145 名、そのうち朝の歯磨きに何らかの困難がある方が 45 名いた。歯磨き困難の内訳は、拒否 21 名、噛み付き 3 名、手で叩く 7 名、失行・失認 17 名であった。その際の対応方法は、声掛け 11 名、手を添える介助 8 名、手を押さえてが 5 名、2 人で 1 名に対応 6 名、無理せず延期 9 名、グループ作り 1 名、場所変更 1 名あった。

【考察】 口腔ケアの実態調査では、全体の 19% (45/238 名) に困難を認めた。作業療法士らの介入により、その抵抗のある方の 80% (36/45 名) に口腔ケアが可能になった。作業療法士らの介入により口腔ケアが全体の 81% (193/238 名) から 96% (229/238 名) の方に実施できるようになった。残り全体の 4% (9/238 名) は、実施できず延期した。延期となった方も毎日ではなく数日に 1 回は口腔ケアを実施しているが、今後も他職種との連携をとりながら、全ての方に定期的な口腔ケアを行えるように努めていきたい介助時での BPSD の軽減につなげていきたい。